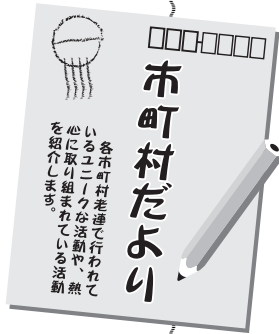


### 創造と連帯、高齢者福祉向上を 茨木市老連、創立50周年を祝う

府内の草分け、いま173クラブ、会員1万人

茨木市老連の創立50周年記念大会が昨年10月5日、茨木市市民総合センターで開かれ、さらなる飛躍を誓い合いました。

昭和10年にスタートした「茨木不老会」を前身として、同市老連は30年5月、大阪府内で最初に結成され、現在、173クラブ約1万人の会員を擁する組織に発展しています。大会には各クラブ会



茨木市長、福井紀夫・市議会議長、府老連会長（名村副会長代理）らが祝辞を述べ、大会宣言を採択しました。

ユーモアたっぷり  
玉井さんが講演  
元朝日放送アナウンサーの玉井孝さんが

「高齢期を楽しく生きる」と題しユーモアたっぷりな講演。午後は、謡曲や銭太鼓、舞踊、民謡など、会員が芸能を熟演。ウィークデイアンサンブル」の演奏を楽しみました。

### 子供たちと交流、次世代育成めざす 雨乞い「笹踊り」を復活・伝承

和泉市・南横山校区老人会、ユニークな取り組み

最近、子どもたちとの交流を深めて、次世代育成活動」を推進している老人クラブが多

くなっている中で、今回は伝統芸能を子どもたちに伝えようと努めている老人クラブが多い。



① 笹踊りを奉納する保存会員と子供たち  
② 笹踊りの指導を受ける子供たち

和泉市の南端、南横山校区老人会（山本博和会長）には、「笹踊り」という、「雨乞い踊り」があり、大正2年に氏神八坂神社正遷宮祝い

に奉納の後3、4回しや8、映画フィルム、

か踊られず、昭和53年以降途絶えていました。平成13年度に文化庁の「ふるさと文化復興事業」の助成を受けて復活することになった。

平成15年度から後継者を育成するために、「伝統文化活性化国民協会」の助成を受けて、「伝統文化子ども教室」を開設して子どもたちに踊りを教えています。

昨年10月10日の

録音テープなど貴重な資料が見つかりました。踊りがわからず困っていたところ、昭和53年に高齢者から指導を受けた当時の小学生たちの記憶や映像をたまたながら踊って、見物客に感動を与え、喝さいを博しました。

当日は小雨が降りかける中を決行しましたが、翌朝は曇りながら本降りになり、「急げしんぼち後からしくれはしてくるぞ」の歌詞そのものでした。

保存会のメンバーは「地域ぐるみの支援を得て、埋もれていた伝統文化の掘り起こしにこぎつきました。保存の気運を盛り上げて次世代につなげたい」と語っていました。

茨木市長、福井紀夫・市議会議長、府老連会長（名村副会長代理）らが祝辞を述べ、大会宣言を採択しました。

ユーモアたっぷり  
玉井さんが講演  
元朝日放送アナウンサーの玉井孝さんが

「高齢期を楽しく生きる」と題しユーモアたっぷりな講演。午後は、謡曲や銭太鼓、舞踊、民謡など、会員が芸能を熟演。ウィークデイアンサンブル」の演奏を楽しみました。